

〔長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。〕

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《横尾・滑石・岩屋地区》

❀ 第3回 開催報告 ❀



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。



日時 平成30年8月25日(土) 14:00~16:00

場所 滑石公民館

参加者 地域の皆さん 43人

1 第3回までに話し合ってきた内容

第1回

(6/23)

- 長崎市の**公共施設の現状**や**見直しの必要性**について
- 横尾・滑石・岩屋地区の**見直した方がいいと思う施設**について

第2回

(7/21)

- 市全体と、横尾・滑石・岩屋地区にある**施設の配置の考え方**を説明
- 市が提示した**配置の考え方**と「**話し合っていたきたいこと**」について、**意見交換**

第3回

(8/25)

- 第2回でいただいたご意見等を踏まえて、**市で検討した結果**を説明
- 意見交換**
- 対話のまとめ**



2 皆さんからいただいたご意見等に対する市の回答

第2回

(住民)
主な意見

- 公共施設の予約システムのIDを作る際に、利用できる施設に制限を設け、ふれあいセンターをその地域の人だけが、システムで予約できるようにしてはどうか。

**予約システムで
もっと便利に!**



第3回

(市)
回答

- ・ふれあいセンターは、主に地域の皆さんにご利用いただいている施設ですが、予約システム上で特定の施設の利用を制限することは制度上困難です。
- ・今後、ふれあいセンターなどを予約システムの対象施設として拡大する場合の施設運営上のメリット・デメリット及びシステムの改修等の費用も含め、見直しの検討を行いたいと思います。

2 皆さんからいただいたご意見等に対する市の回答（つづき）

第2回

（住民）
主な意見

- ふれあいセンターを拡大してはどうか。
- 横尾は、読書をしたり、大人と子どもと一緒に過ごせる場や子どもが安心して寄れる場にしてはどうか。

デイサービスセンター 撤退後のスペースの活用



第3回

（市）
回答

- 地域コミュニティ活動の事務所として使えないか。
- ・横尾地区ふれあいセンターは若干手狭で、施設の多くが2階にあることから、1階の一部を研修室又は、図書室として活用できないか検討していきたいと思います。
- ・滑石地区ふれあいセンターは、他のふれあいセンターと比較しても広い（約3倍）ので、拡大する考えはありません。
- ・地域コミュニティ活動の事務所として利用したいとのご希望については、活用が可能かどうか、今後協議を行っていききたいと思います。

第2回

（住民）
主な意見

- 子育て世代を助ける場にすれば、地域に若い世代が増えるのではないか。



・長崎市は、子育て世代の支援の一つとして、子育て中の保護者が気軽に集い、相互に相談や交流等ができる場として、子育て支援センターの設置を進めています。

第3回

（市）
回答

・「長崎市子ども子育て支援事業計画」に基づき、市内16区域に設置することとしていますが、横尾・滑石・岩屋地区にはまだ設置されていません。滑石地区老人デイサービスセンター撤退後の余剰スペースについては、候補地の一つとして検討したいと思います。

第2回

（住民）
主な意見

- 現在のデイサービス事業者が必要であれば、有償で貸してはどうか。
- デイサービスセンターが撤退すると、地域開放のお風呂を利用している地域の人困るのではないか。

・現施設は、ボイラー等の入浴設備の老朽化により、そのまま利用することが難しくなってきたことから、平成32年3月末をもって事業者への貸付を終了することとしており、デイサービスセンターとして継続して貸付を行うことは困難です。

第3回

（市）
回答

・地域への浴室開放事業は、施設を事業者は無償でお貸しすることに伴う市からの条件で、地域還元事業として実施していただいているものです。浴室開放事業についても、事業者への貸付期間満了と併せて終了することとなりますので、利用者の方に対しては、早期の周知に努めていききたいと思います。

第3回

（住民）
主な意見

- 横尾と滑石の地域の状況は違うので、デイサービスセンター撤退後の余剰スペースの活用について、個別に話し合いをする場を設けていただきたい。
- デイサービスセンター撤退後の余剰スペースは、子育てや地域コミュニティで活用するなどのいろんなアイデアがあるが、「すぐできるもの」、「10年先でないといけないもの」などがあると思うので、早くできるものは早く取り組んでほしい。

・滑石地区と横尾地区のデイサービスセンター撤退後の余剰スペースの活用として、皆さんからたくさんのご提案をいただきました。いただいたご提案を参考に、どのような活用方法が地域にとって一番良いのか、それぞれの地域の皆さんともお話を続けながら、整理を行っていきたくと思っています。

（市）
回答

・デイサービスセンター跡の活用については、地域で必要とされているサービスで、行政が提供すべきものは何かを最優先に考え、大掛かりな整備が必要なのか、整備を行わずにそのまま活用できるのかも含め、できるだけ早く活用方法を決定していきたいと思っています。





(住民)

主な意見

●避難所指定された遠方の小中学校などに行くのではなく、近くの民間のデイサービスセンターなどと契約をして、すぐ近くで避難できるようにしてはどうか。

●災害時に避難をしない人が増えていると聞くので、避難したくなるような、より充実した避難所にしていけばいいのではないかと。また、避難が長期になればお風呂が必要になるため、デイサービスセンターのお風呂を活用してはどうか。

(市)

回答

・指定避難所とは別に、地域の方々が自治会公民館や民間施設を「地域避難所」として自主的に運営されている地域もあります。地域避難所への支援として、その施設が土砂災害特別警戒区域内に立地していないかという確認や、毛布をお配りすることなどができますので、ご相談ください。

・デイサービスセンターのボイラー等の入浴設備は老朽化しているので、引き続き利用することは困難です。一方で、大規模災害時には、長期にわたり避難所で生活することが想定されるため、暑さ寒さ対策や入浴機会の確保などの、健康面や衛生面における環境を整備する必要があると考えており、現在検討を行っているところです。



避難とは？

避難とは、命を守る行動のことであり、避難所だけが避難先になるわけではありません。例えば、急な大雨等で外が危険な時は、避難所に行くよりも自宅の2階や崖から離れた部屋に留まることが安全な場合もあります。避難所だけが避難先という先入観ができると、命の危険を伴うこともありますので、避難のあり方についても、様々な機会を捉えて周知啓発を行っていきます。



(住民)

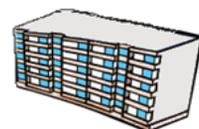
主な意見

●被災者支援のため災害時に借りることはできるのか。

●入居費を高め設定して、山手に住んでいる方や買い物難民の入居先として受け入れたり、民間に1棟ごと賃貸や売却を行って、市の稼げる事業としてはどうか。

●公営住宅専用の集会所をコミュニティ活動の場に使えないか。

市営住宅の活用



・現在も被災者支援のため、災害時には空き住戸の提供を行っています。

・市営住宅の役割は、住宅に困っている方々に対して、比較的安い家賃で住宅を提供するものですので、市営住宅のままで家賃を高く設定し、入居者を拡大することはできません。しかし、集約などにより、市営住宅を廃止した場合には、廃止後の土地建物の民間への売却などを検討していきたいと思えます。

・市営住宅の集会所は、自治会等が独自の管理規約などにより維持管理を行っていますので、使用方法などの承諾が得られた場合には、地域開放型の集会所として利用可能と考えられます。利用を検討される場合は、まずは住宅課へご相談ください。

(市)

回答





第3回

(住民)
主な意見

●地域コミュニティの計画と公共施設マネジメントの整合性はどうか。

・地域コミュニティのしくみは、将来を見据え暮らしやすさを守るため、自分たちのまちは自分たちで良くしていくという理念のもと、活動している地域を市が応援するしくみです。公共施設マネジメントも、これからも暮らしやすいまちであり続けるために、公共施設のあり方を考えていこうというもので、同じ方向性です。

(市)
回答

第3回

(住民)
主な意見

●まちづくりに関するグランドデザインはどのようなものなのか。その中で、公共施設のマネジメントをどう考えていくのか。

・今後20年間の都市づくりの方向性を明らかにするため、平成28年12月に改訂した「都市計画マスタープラン」では、「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」というまちの姿を目指しています。

・公共施設の見直しも、この“まち”の姿を念頭に配置を考えます。

・日常生活に必要なサービスを提供する施設は、皆さんがお住いの一番身近なところに配置します。

・複数地区の市民の皆さんが利用する施設は、交通の便のいいところや人の集まりやすいところに、全市民を対象とする施設は、市の中心部に配置し、これらの施設については、公共交通の利用や、情報などのネットワークによりご利用いただきたいと考えています。

(市)
回答

ネットワーク型コンパクトシティ長崎

つながり(ネットワーク型)

みんなが暮らしに必要な機能を利用できるように
つながりをつくる

まとまり(コンパクトシティ)

人が集まりやすいところに暮らしに必要な機能を
まとめる

第3回

(住民)
主な意見

●廃校となる小学校の使い方については、地域の意見を聞いていただきたい。



・学校の跡地活用については、地域のご意見もお聞きしながら、今後の地域のまちづくりを踏まえて考えていきたいと思ひます。

(市)
回答

【講評】 (アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生)



- 皆さんのご意見やご質問の中に、「他の計画との整合性」という話がありました。まちづくりのグランドデザインというのは、公共施設の再編を考えるときの一番重要な視点だと思います。
- まちづくりやコミュニティなど、施設のことだけではないんだということを皆さんと共有できたのが、今回の市民対話をやってよかったことだと思います。公共施設の見直しは、この市民対話で終わりではなく、これからが始まりです。本当に実践していくという過程では、皆さんからまたお知恵をいただく場があるのではないかと思います。

4 今後の流れ

住民対話(全3回)



地区別計画の策定



公共施設の地区別計画を策定しましたら、横尾・滑石・岩屋地区の皆さんへ改めてお知らせいたします。たくさんのご意見・ご提案をありがとうございました。



◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室 (☎直通：095-829-1412)